

「新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する関係住民からの意見聴取結果  
【議事録】

平成 25 年 6 月  
国土交通省 中部地方整備局

## 新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に 関する関係住民からのご意見をお聴きする場

日時：平成25年5月10日（金）18時30分

場所：美濃加茂市生涯学習センター 集会室

【発表者（美濃加茂-01）】 私は、丸山ダム直下の兼山ダム湖の右岸にあります八百津町八百津で先祖代々より材木商、製材業を営んでおります岡崎定勝と申します。

今晚の公聴会に出席をさせていただきまして、意見を発表する場を与えていただきまして、本当にありがとうございました。

私は、木曽川の洪水で被害を受けた者の一人としての意見を発表させていただきますので、どうかよろしくお願いをいたします。

昨年9月28日に、八百津町の風景がテレビで全国に放映をされました。それは、木曽川の美しい姿を放映されたわけです。かつての木曽川の清流が流れたその風景を…、ちょっと時間がございませんので割愛させていただきますが、申し上げたいのは、そのすばらしい八百津の木曽川の流れの風景を後世にずっと残していただきたいということです。内容はちょっと割愛させていただきます。

私が一番言いたいのは、洪水の被害者として、昭和58年9月28日にこの木曽川の大洪水がありました。そのときは、ちょうどいまから思い直しますと、台風10号の影響で前日の27日より結構な雨が降り続いておりまして、八百津も結構雨が降ってありました。でも、私はあのような大水害が起こるような雨だと認識はしておりませんでした。

その次の28日の夕方になりますと、木曽川の水位が徐々に上がってまいりまして、5時、6時ごろになりますと、水位が急激に上がってきました。ご近所の皆様も、「これは大変なことになりますので、ぜひこの材木を高台に避難させるようにお手伝いします」と言って大勢集まっていたかしまして、どうですかと言われましたが、私は「いや、大丈夫です。このいまのダムは4,800m<sup>3</sup>/sec以上放流することは絶対ないから、うちの工場建設に当たっては、4,800m<sup>3</sup>/secで耐えられるような設計をして建設しておりますから、もう絶対ご心配なく」ということでお手伝いをお断りしました。とたんに、水位は急に上がってまいりまして、そのときは丸山ダムの放流の警報サイレンはずっと鳴っていました。でも、私はい

つものことで、ダムが放流するときのサイレンだぐらいの認識しかありませんでしたが、それどころの騒ぎではなくて、あっという間に工場の中は3mぐらいの濁流がつかまりまして、濁流の中に工場がぽっかりと浮いたような状態になりました。濁流が去った後は、ヘドロと流木とごみと、そして残ったのは設備に要した借金だけだと。

翌日の朝になりまして、私はもう途方にくれまして、これではもうとても岡崎製材は立ち直すことはできないなと思っておりましたが、皆様のいろいろな支えによって現在までに至ることになりました。でも、その後遺症はいまだに続いているのが現状でございます。

そのときに、後の報告会、説明会がありまして、当時の建設省と八百津町の合同の説明会だと思いますが、建設省からは当時の水野所長以下数名の方、そして八百津町からは荒井町長ほか数名の方が出席されまして、いろいろな経過報告とか状況報告がされまして、結論といたしましては、御岳山付近に大雨が降り、丸山ダムでは長野県以来からずっと積み重なってきた水が大量に流れ込み、8,000 m<sup>3</sup>/secを超えるような放流をせざるを得なかったということの報告でして、結果として、我々に補償するとかというような話は一切ありませんでした。

その後、いろいろなダムが建設してからも洪水に見舞われまして、出水による被害も結構出たようですが、とにかく58年のこの8,000 m<sup>3</sup>/secを超すような水というのはないので幸いですが、もしこれが起きたらどうなるかということを考えますと、私どものような木曾川縁に住む人間は、毎日が本当に恐怖でなりません。

ダム建設というものをいま進められているようですが、なかなか遅々として進んでいないようです。今回の新丸山ダム事業に関してでも、八百津町では49軒の方が立ち退きを余儀なくされまして、住み慣れたふるさとを離れ、そして中には下立(オチヂ)部落という部落そのものが消滅してしまったようなところもあります。

そして、その部落の方では、前回のダムで移転して、再度また移転をせざるを得なかったという方もおみえになります。でも、その方々は、「我々が移転すれば、きっと新しいダムもできるだろう、そして下流の何百万人の人たちも災害から救われるだろう」という思いを信じて、自分のふるさとを捨てられて移転されたという話も聞いております。

八百津町も22年、23年と大災害を受けております中で、土石流で家が壊れてしまって3人が犠牲になられた事故もあったようですが、いまの気象でいうと、いつ何どきどのような大災害が起きるかということは保障の限りはありません。そして、想定外ということが申されますが、二度と想定外ということがあってはならないし、許されることではありま

せんと思います。

そのためにも、我々木曽川流域に住む者にとって、8,000 m<sup>3</sup>/sec以上の水が来ても二度と災害が起こらないようなダムを早急につくっていただいて、私たちが安心・安全に日々を暮らせるような、絶対間違いないダムを早急に建設していただくよう、お願いをいたします、私の意見とさせていただきます。

どうもご静聴ありがとうございました。（拍手）

新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に  
関する関係住民からのご意見をお聴きする場

日時：平成25年5月10日（金）18時30分

場所：美濃加茂市生涯学習センター 集会室

【発表者（美濃加茂-02）】 可児市からまいりました[REDACTED]でございます。

ちょうどこの会場からの対岸が私の住んでいる土田(ﾄﾀ)の渡という地域でございます。  
そうしたところの被災地を代表して皆様方をお願いをするわけでございます。

きょうはそういった過去30年過ぎたところからお話をし、皆様方にご理解をいただき、  
一日も早い、いま八百津町さんからのお話のように新丸山ダムのかさ上げをお願いしたい  
と思うわけでございます。

新丸山ダム建設事業の検証に係る意見ということで、私は過去30年前を振り返ってお話  
をしたいと思うわけでございます。

昭和58年9月28日、木曽川の大洪水でございまして、そのときに私も議員の一人でご  
いましたので、常任委員会が開かれておりまして、その都度、職員が木曽川の増水情報を  
流してくれました。大変心配になったわけでございます。常任委員会が終わりました家へ  
帰りまして、木曽川へ足を向けたわけでございます。

私の住んでいるところの渡地区、そして下切地区、そして可児川と木曽川との合流点に  
ありますところの大脇地区、この3地区が大きな被害を受けたわけでございます。住家は  
もちろん、田畑等におきまして、私の住んでおりました川原田というところで4町歩の水  
田に1m余の土砂が入りまして、無の状態になっているわけでございます。30年前を振り  
返ってみますと、あの洪水の怖さは皆さんもご承知かと思うわけでございますが、中濃大  
橋南の41号線のあの道路へ波しぶきがあがっているという状態でございまして、大変恐怖  
に思ったわけでございます。何町歩とあるあの中濃大橋南の下畑というところでござい  
ますが、5m余の水の深さになりまして、田畑が荒れ放題になったわけでございます。

水田はまだ何とか助かりましたが、そこの中で牛を飼っていらっしゃる方が1軒ござ  
います。その方は、そんなに水は来ないだろうということで、ほかの人の住家のお手伝い  
をしてみえましたが、ぶくぶくと水が上がってきますので、これは大変だということで、  
その牛小屋へ駆け寄られまして、7頭おりましたが、そのうち2頭は何とか引きずり出し

て高台へ上げたわけでございます。しかし、一般の人があの大きな牛をなぶるということは、あるいはそうした洪水に遭っている牛をなぶるとどういう危険状態が起きるかわかりませんので、素人ではなぶることができなかったわけでございます。

2頭は何とか高台へ引っ張り上げまして、あとの5頭は綱を切って濁流の中へ出したわけでございます。初めのうちは多少は泳いでおりましたが、疲れ切ったのかどうかわかりませんが、鳴きながら濁流に流れていきました。その中で、翌日管理所から電話が入りまして、1頭の子牛だけが中濃大橋の南の41号の土手にはいずり上がっているという電話があって、飼い主はあわててその牛を引き取りに行かれたという状況でございます。

現在も、渡地区の水田は、当時の土砂が1m以上も入りまして無農地になりましたので、多少市の要請によりまして埋め立てはしましたが、現在も荒廃した土地になっているわけでございます。

あの大きな災害が二度と起こらないように、いま八百津町さんからもお話がございましたように、二度とああいう災害が起こらないようにということで、私たちは願っているわけでございます。

こうした検証案の中を見ますと、約20mのかさ上げをしていただきますと、この地域、下流におきましては、あのかのときの58年9月28日の大水害の水量から調整ができて、約3mぐらいの水位が下がるだろうというお話も聞いている。そうなれば、安心して私たちが暮らせるところになるかと思うわけでございます。

当時、美濃加茂市の太田町におきまして、あるいは土田の対岸でございます坂祝町さんにおきまして、大変な被害が出ております。さっき資料をちょっと見ますと、2市1町で4,588戸が冠水、浸水したという報告がございました。

また、堰堤も建設をされてきておりますので安心しているわけでございますが、いま私たちがやっているのは、母なる大河、木曽川を、少しでも市民の皆様方に安心して散策をしていただくということで、木曽川左岸遊歩道をつくっているわけでございます。今渡から土田へかけて、土田の自治会、今渡の自治会が共同でいま整備をしているわけでございます。せっかく整備したのが、さきにお話ししましたように、また58年のあの水害に遭えば、せっかくつくりました遊歩道も残念ながら無になってしまうと思っているわけでございます。

昨日、中日新聞にも発表されておりました。検証結果が出ておりまして、おおむね新丸山ダムの建設には賛成のご意見ということが出ておりましたので、安堵しているわけでござ

ございます。やはり一日も早く新丸山ダムのかさ上げをしていただきまして、八百津町さんでは、さっきお話しありましたように多くの皆さん方が移転されているというお話をお聞きいたしましたので、大変ご苦勞であると思うわけですが、何せ下流におきましては、ああした二度と大きな災害がないようにということで、下流の住民は願っているわけでございます。

どうか一日も早く建設事業にかかっていただきますように、心からお願いを申し上げ、今後の作業が順調に進むことを心からお願いをいたしまして、私の意見とさせていただきます。

どうもありがとうございました。（拍手）

## 新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に 関する関係住民からのご意見をお聴きする場

日時：平成25年5月10日（金）18時30分

場所：美濃加茂市生涯学習センター 集会室

【発表者（美濃加茂-03）】 私、坂祝町からまいりました[REDACTED]と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ちょっと風邪の関係で声が聞きづらいかと思いますが、ひとつよろしく願います。

昭和58年9月28日、私にとっては忘れることのできない日となりました。考えられない大出水による濁流が市街地を襲いました。この災害により、坂祝町から美濃加茂市において築堤工事が着工されました。このとき、既に新丸山ダムの計画があり、それに基づいた設計によるものと聞いております。被災者にとっては、堤防ができ、ダムのかさ上げが実施されることにより、再びこのような災害が起きることがないと喜んでおりました。

ダム不要論がアメリカから起こり、日本でも脱ダム宣言がうたわれるようになりました。大陸の河川と我が国の河川では、同じと考えるのはおかしいのではないのでしょうか。緩やかに流れる川と、我が国のような、特に木曽川のように急峻な地形を流れる川では条件が全く違うと思います。降った雨は鉄砲水となり、その日のうちに伊勢湾へと流れていってしまいます。治水、利水にとってダムは必要不可欠なものと考えます。

美濃加茂市では、築堤工事に合わせ排水路を整備し、内水排除のポンプ場を整備されました。また、加茂川には逆水樋門が設置され、ポンプも配置されつつあります。一部されておりますが、まだ完全なものではないと聞いております。

しかしながら、私の坂祝町においては、樋門は整備されましたが、内水排除の施設はありません。平成23年9月の台風の記録的な大雨により、坂祝町では内水が氾濫し、国道21号線が冠水しました。もう少しで住宅への浸水が危ぶまれました。ポンプが設置されたから完全とは言えません。ダムにより洪水調節を行い、できる限りの水位低下を図っていたきたいと思っております。

次に、利水についてであります。木曽川用水では、平成になって確か10回ほどの節水があったと記憶しております。特に平成6年には129日間の節水がありました。新丸山ダムにより維持管理流量を確保し、また徳山導水路の建設とあわせて渇水対策の確立を図られ

たいと思っております。

新丸山ダムは、当初計画では平成14年完成と聞いております。それが平成28年となり、いまだこのような状態であります。ゴー発進が出てからも十数年と長い年月がかかると聞いております。用地買収も約98%の地権者の協力をいただいているそうです。

地権者の意向を無にしないよう、また下流域の災害が二度と起こらないよう、一日も早く本体工事に取りかかっただくとともに、当分の間の対策として、河道内の樹木の伐採を行い、洪水時の水位低下が図れるよう要望し、私の意見とさせていただきます。

どうもありがとうございました。（拍手）

## 新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に 関する関係住民からのご意見をお聴きする場

日時：平成25年5月10日（金）18時30分

場所：美濃加茂市生涯学習センター 集会室

【発表者（美濃加茂-04）】 私は、代々中山道太田宿に住んでおります佐光重広といいます。よろしくお願いいたします。また、このような機会を与えていただき、まことにうれしく思っております。

私の結論は、一日でも早く新丸山ダムの完成を望んでいる地域住民の一人であり、被災者の一人です。

去る3月26日、中日新聞や岐阜新聞で大きなニュースが飛び込んできました。新丸山ダムの建設継続が最も有利だとする総合評価案が国土交通省中部地方整備局においてまとめられ、関係自治体に提示された見出しです。

私ども美濃加茂市では、昨年からのソニーの撤退や、日本ライン下りの休止など、本当に暗いニュースが続きましたが、私ども木曽川流域の住民にとって本当に大きなニュースが飛び込んできました。事業継続に大きく前進したことは大変うれしく思っていますし、また、関係者の方々に深く感謝を申し上げる次第であります。

先ほども言いましたように、私は代々太田宿に住んで商売をしています。太田宿は、約350年前に中山道の宿場町として整備されてから、毎年のように水害との闘いをいやが応もなくされてきた宿場でございます。

特にちょうど30年前の58年水害は、過去に例がない大惨事であり、私自身も水害の恐怖を味わいました。被災状況を見たとき、もうこれでこのまちは死んだと、終わったのだと思いました。これが本当に夢であってほしいと思いました。

その後、その後遺症は非常に大きなものでして、水につかった多くの歴史的遺産が取り壊され、風評被害などで多くの友だちがこの地を去りました。財産を失い、過労と心労とで多くの方が早く亡くなりました。また、自殺未遂者も出ました。本当にかけがえのない多くのものを失いました。

私たちはその後、災害復旧のため、河川激甚災害対策特別緊急事業の築堤では、28棟の建物が移転し、3.8haもの用地買収に地元の住民は協力してきました。私も用地を協力し

た一人でございます。しかし、築堤だけではこの再発防止にはなりません。当時から新丸山ダムの洪水調節と合わせて初めて安全に流下することができると聞いておりました。太田宿付近では、新丸山ダムが完成しますと、約4m水位が下がると聞いておりました。二度と起こさないためには、築堤と新丸山ダムの両輪で二度と水害のないまちにするのだということでした。

激特事業は約5年間で終わりましたが、新丸山ダムの完成は、当初、平成14年に完成すると言われましたが、平成28年度までに変更され、しかし私は完成を期待しておりました。

しかし突如、平成22年9月に新丸山ダムが検証対象ダムとして位置づけられたことは、被害住民を逆なでする暴挙となる事件でありました。しかし、私はここで冷静に判断し、ダムに頼らない治水対策案を期待していました。しかし、提案された案は、河道掘削や堤防のかさ上げ、引堤など、新丸山ダムの工事と比べましても非常に工期がかかり、工事費用が膨大となるなど、私どものずぶの素人が見ても本当にがっかりする案ばかりでした。

またこの地は、昭和6年に日本八景に選定され、名勝木曽川となり、飛騨木曽川国定公園に指定されるなどの景勝地であります。河川掘削など、とても受け入れられる提案ではありませんでした。

今回、検証対象ダムの治水と渇水時の流量維持についての総合的な評価の結果として、最も有利な案はいまの計画の新丸山ダムとのことで本当に安堵しております。

いまちまたでは、震災と言えば東日本大震災のことばかりが大きなニュースとなっていますが、私たちの被害も東日本大震災と全く同じ被災者の一人です。私たちは被害を受けてから30年になるのに、いまだに新丸山ダムの本体着工もされていません。58年災害は未曾有の雨による天災かもしれませんが、今度水害が起きたら、工事の遅れによるもので明らかに人災です。

また、なぜ木曽川の中流域である美濃加茂や坂祝が浸水被害をこうも受けるのでしょうか。なぜ下流域のためにいつまでも犠牲にならなくはいけないのでしょうか。私たちは子孫のために、水害に強いまちとして、かけがえのない財産を残して、そして死んでいきたく思っております。

いまは一日でも早く検証を終えていただき、3年間のブランクを解消して、新丸山ダムの早期完成を切に望むものであります。

これで私の意見を終わります。どうもありがとうございました。（拍手）

## 新丸山ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）に 関する関係住民からのご意見をお聴きする場

日時：平成25年5月10日（金）18時30分

場所：美濃加茂市生涯学習センター 集会室

【発表者（美濃加茂-05）】 私は、恵那市飯地町の方から今晚出席させていただいているわけですが、飯地町の新丸山ダム建設対策協議会の会長であります[REDACTED]といいます。

いままで皆さんからお話をいただいたわけですが、私のほうは、丸山ダムの上流ということで、皆さん方とは環境が少し異なるかと思っておりますけれども、今回、新丸山ダムの建設関係で3つほどの検討事項が出ているわけですが、

まず一つには、洪水調節ということでございます。先ほど来お話がございましたように、昭和58年の9月の豪雨によりまして下流地域に大きな被害を与えたわけですが、新丸山ダムのかさ上げによりまして、一時的に多量の保水を行うことで下流域の災害防止を図ることができるかと考えております。

当初の計画では、堰堤の高さが24.3mかさ上げであるということでありましたが、今回の見直しで20mと聞いております。技術的なことはわかりませんが、4mほど下げることにによりまして、現在の湖岸に位置する418号が水没しなければ、管理用道路として活用ができるものであると考えます。

それから2つ目には、流水の正常な機能の維持ということで、新丸山ダムの建設によりまして、現状の水質を保ち、さらに保水力の増大により、目標の流水の正常な機能が維持されること。また、周辺の用地確保が一部では進められております。また、関係者の同意も行われ、コスト的にも安価な方法で行われることから、建設計画が適当と考えます。

3つ目には、総合的な評価ということで、長期にわたり建設に対する調査研究がなされており、さらには今日まで相当なダム建設関連の費用、及び周辺の環境整備についても歳出されており、計画どおりの建設がなされることを要望したいと思います。

また、我々の地域のことをちょっとお話ししますと、わが町飯地町は恵那市の北西部の木曽川右岸に位置し、木曽川から400mほど上り、標高600m付近に家屋が点在しております。起伏のある地形の高原地帯が生活圏となっております。隣が八百津町で、下流には笠置ダ

ムをのぞみ、10km下流には丸山ダムがあるわけでございます。当地の人口も700人程度で、若者の流出も進み、高齢化率も40%近くとなっております。こうした現状の中、町をあげてまちづくりに取り組んでいるところであります。

さて、新丸山ダムの建設につきましては、平成2年に基本計画、平成6年には水源地域整備計画が決定されました。我が町に新丸山ダム建設事業の話が持ちかけられてから、飯地町新丸山ダム建設対策協議会を設置いたしまして、ダム建設の促進について要望を重ねてまいりました。

その後、ダムの上流地域として、水没地域の土地を提供しながら、2戸の家屋の移転と神社の移転に協力をしてまいったところでございます。

平成19年には、当地域において、丸山ダムを起点とする国道418号の山頂ルートの概略設計が進められるための現地の立ち入り調査、また地権者への説明会が行われまして、道路の線形とか、県道のアクセス、道路排水の維持及び残土の埋め立て地などが協議されまして、それも八百津町潮見から飯地町、県道の接続地点までの1.6kmの図面が提示されたわけでございます。

その後、平成17年にダムの基本計画の変更が行われ、さらに事業は停滞をいたしまして、予定していた完成年度が大きく変更となってしまったわけでございます。

その後、国の建設事業の見直しが行われまして、新丸山ダムの建設は再検証となり、今日まで休止状態となっております。私たちも新丸山ダムの建設については積極的に協力を進めてきましただけに、こうした状況に地域は大きなショックを受けております。

現在、418号山頂ルート、丸山バイパスは八百津町の旅足橋を経て、潮南地区まで建設が進み、平成22年3月に開通したところでございます。国の再検証により、長らくこの後の動きが見られませんでした。今回この検証が周辺地域の意見として、当初の計画どおりのダム建設が妥当とする報告書の案が示されたことに対し、地域としてこうした動きに対し、大きな期待をしているところであります。

新丸山ダムは、洪水調節により下流地域の安全と渇水時の安定的な給水、河川環境の保全を図り、中部圏の利水に大きな貢献をするものであり、早期の完成が望まれるところであります。

また、国道418号の整備は、中部圏を縦断する幹線道路として、さらには2027年に開通するリニア中央新幹線、岐阜駅とのアクセス道路として重要な道路であります。現在、トラフ巨大地震が予測されておりまして、これらの緊急時の防災対策上の道路としても大き

な役割を果たすものであり、あわせてこの道路建設が地域振興にも大きく寄与するものと思います。

ぜひ、新丸山ダムの早期建設と周辺整備について、格段のご尽力をいただきますよう、要望するものであります。

以上で、私からの意見を申し述べました。ありがとうございました。（拍手）